

- 
- 注2 青土社版『全集』にあるこの注は\*印のところにあるべきもの。原書の注の3が2といれ替って邦訳の注となっている。
- 注3 このあたりのテキストについても調べるべきことが多い。

## イエスに美を見たワイルド

山口 哲生

(活水女子大学教授)

獄に下るほんの5日ほど前に、ワイルドがダグラスに宛てた手紙には、「私の美しい薔薇よ、優美な花よ、百合のなかの百合よ」と書いてある。それが『獄中記』になると、「私を獄に入れたのは、君の父上ではなくて君だ。徹頭徹尾、君のせいだ」という言葉に変わり、さらには、「君は礼節もなく要求し、感謝もなく受けとった。君は私の出費で生活する一種の権利があると思うようになった」などと金銭のことにまで及ぶようになる。お金のことを言い出すようになれば、友情も夕暮に近づいた証拠であろうが、しかし、獄中でこういう腹立たしき、悔しさにワイルドが呻吟したことと、彼のイエスとの出会いは無縁ではなからう。

ワイルドは獄に下ることによって、裏切られた者の悲しみを知った。そして、その悲しみを知っていた者がもうひとりいた。イエスである。イエスを裏切ったのはユダだけではない。イエスが十字架にかけられたとき、弟子たちは皆、クモの子を散らすように逃げてしまった。ワイルドが獄に下ったとき、ダグラスはロクに手紙もくれなかった。「私は裏切られた」と彼は思ったであろう。そういう自分の境遇とイエスの境遇が似ていると思っただろう。

相手の悲しみにたいして想像力がまるで働かないダグラスとつきあって、想像力がないということがどんなものであるかを身をもって知ったワイルドだけに、相手の悲しみの根源を感じるとイエスの想像力に深く感動した。ワイルドはイエスの「詩的正義」の生きざまを、美しいと言った。そう言ったところが、いかにもワイルドらしい反応である。普通なら、「神聖な」とか「偉大な」と形容するところである。ちなみに、ここで言う「美しい」とは、視覚的に「美しい」というのではなく、目に見えないものの美しさ、精神の美しさである。「詩的正義」は外側の形によって判断しないで内側の価値を洞察する。そのような想像力をもつイエスを、ワイルドは美しいと言う。獄中生活において、イエスにそのような美を見たというところが、ワイルドらしい個性の表れであり、同時に、ワイルド

---

のイエスとの邂逅であった。ワイルドは、自分の資質にふさわしい出会いをしたわけである。

## ワイルドの生涯と著作における書簡の位相

西村孝次

(協会顧問・元明治大学教授)

イギリス人は気違いじみるくらい手紙好きである。イギリスの作家は近代から現代にいたるまで実におびただしい量の書簡を書き残している。

ひとつの例を挙げれば、ジョン・キーツ (1795—1821) であって、弟のジョージとトム、妹のファニーをはじめ、恋人のファニー・ブローン(39通)、友人のシェリー、リー・ハント、画家のベンジャミン・ヘイドンやジョウゼフ・セヴァーンその他に宛てて多くの手紙を書き送った。それらは、フォーマン兄弟の『ハムプステッド版』(1938)によって集成され、さらにロリンズにより補完された(1958)。キーツの手紙について、T. S. エリオット (1888—1965) は「かつていかなるイギリスの詩人の書いた手紙のなかでもっとも注目すべき、またもっとも重要なもの」とさえ激賞した。

そのエリオット自身が、今世紀における「もっとも注目すべき、またもっとも重要な」手紙の書き手として、D. H. ロレンス (1885—1930) と双壁になろうとしているのであるが、ワイルドの『獄中記』は、こうしたイギリス書簡文学の系譜のなかで捉えられてこそ、初めてその真価を認められるのである。

すくなくともこの手記がロバート・ロス (1869—1918) の善意による削除版としてとどまる限り、それは一種の信仰告白として読まれたのみでなく、またそういうものとして喜ばれてもいた。ところが1962年、ひとりの出版者・伝記作者ルーバート・ハート・ディヴィスがこれの完本を編集・刊行するに及んで、これがほかならぬアルフレッド・ダグラス卿(1870—1947)への奇妙な異常な長文の私信であることが判明し確認されたのだった。したがって、わたしたちは、今日、これを言語に絶する快楽と呪詛と悔恨と希望の錯綜する書簡文学のひとつとして読むようになったわけである。しかもこれは、さきのキーツの手紙が、ある意味でかれの自身の詩とその時代の貴重な註釈であったように、『獄中記』はワイルド自身の作品と19世紀という特定の時代と社会についての独特の評釈となっている。

もし、かりにワイルドの一生を創作と批評と手紙との時代という三期に分けるとすれば、出獄してからのワイルドは、C. C. 3. という囚人番号によってしか発表できなかった『レ